

NEWSLETTER

Physical History No.4



- ・第1回近世地域情報研究会を開催しました。



- ・2008年1月6日から8日にかけて、香川県の琴平町で開催しました研究会の様子について、名古屋大学環境学研究科の溝口常俊さんが報告を書かれていますので掲載させていただきます。



なお、無断転用はお断りします。

村山 聡



Physical History Research Project
(PHRP)

Rocky Mountains, Colorado, USA,
October 04, 2007

1年の計はこんびらにあり（高畑ニュース # 379 BB279 080108 より）

名古屋大学大学院環境学研究科教授 溝口常俊

いきなり12kmも歩かされるとは。

これが今年の初詣。四国丸亀駅から金毘羅さんまで、丸亀街道、通称こんびら街道をひたすら歩き続けた。

第1回近世地域情報研究会（1.6-8）に参加するため、1月6日朝8時35分の新幹線のぞみで岡山へ。そこからJRしおかぜに乗りかえて11時過ぎに丸亀駅に着く。岡山～丸亀間で気になったのは、カップ（妹尾河童）さんと同名の「妹尾」駅、おだやかな瀬戸内海に浮かぶ帆船20艘余、讃岐富士が美しいところか。

丸亀駅で村山夫妻、高木、長谷部、川口、東さんと合流する。そして歩いた。途中、常夜灯が点々とあるだけで、これといった観光スポットがあるわけではない。道路も歴史の道として整備されているわけではなく、車が行きかう国道とくっついたり離れたり、道路沿いの家々の塀もブロック壁が多く情緒のかけらもない。ため池にもいくつかであったが水がなく干上がっていた。茶屋の跡はいいから、今あってほしい。

でも4時間も歩けばいいこともある。途中で入った讃岐うどんはメチャウマかった。大盛り310円だった。左手に小高くそ

びえる讃岐富士は癒しの山だ。ずいぶん歩いた道路右脇に石でできた「馬踏み台」があった。これがインドにあればラクダから落ちることもなかったろうにと思った。ゴール間近になって金毘羅宮の山並みがゾウの鼻のように見えた（写真1）。地図を見ると金毘羅山の別名が象頭山とある。これはまさにネパールアンナプルナ山群の南方にそびえるガネッシュ（ゾウ頭の神様）と同じではないか、と思った。



写真1
ゾウの鼻のようなスカイライン

道中、金毘羅から丸亀までの里程の丁石が何箇所あり、その数字が減っていくのをはげみに、あと半分、もう少し、頂上は間近かだと、登山しているかのごとくの歩きであった。なんとか頑張れたのは、「宝の道歩いて見て 金毘羅街道」というパンフレットに「明治維新の立役者、坂本竜馬や森の石松をはじめ、善男善女が行き来したといわれる金毘羅参詣丸亀街道

に・・・」とうたわれているのを見つけたからである。竜馬、石松気分になって乗り切った。

日ごろいかに運動していな
いかの証であるが、宿に着いた
ときには右足の裏が水ぶくれに
なってしまっていた。

さて、研究会のプログラム
は以下のとおりであった。

- 1/6 20:00-22:00
村山聡・東昇
天草・上田家日記と上田家文書
- 1/7 9:00-10:00
村山聡（香川大学）
隠れキリシタン吟味の記録と上田家日記
- 10:00-11:00
東昇（九州国立博物館）
上田家日記に見る疱瘡関係史料
- 11:00-12:00
溝口常俊（名古屋大学）
因島の過去帳・近世屋久島の住民把握と財産
- 14:00-15:00
長谷部弘（東北大学）
近世期上田藩の領主支配と住民把握
- 15:00-16:00
磯田道史（茨城大学）
水戸藩の農政と農村事情一石神組御用留から一
- 16:00-17:00
川口洋（帝塚山大学）
武蔵国多摩郡下の寺院『過去帳』に記録された被葬者？
- 17:00-18:00
高木正朗（立命館大学）
領国の解体と近代国家への転進一明治初年公文書にみる『仙台藩』
- 1/8 8:30-9:30 総括
- 興味深い発表が多かったの
で、その内容はおいおい紹介し
ていくことにしたい。

9時半解散後、直ぐに金比羅さん詣でに向かった。本宮まで石段785段、かなり急で膝がガクガクしつつも登り切り9時55分本宮に到着（写真2）。



写真2 本宮

右手に奥の社へ、とある。583段、突っ走ってしまった。10時15分着（写真3）。皆さんの「学業成就」を祈念して2礼2拍1礼。御札を買い、一息ついたところで左手の絶壁を見上げたら天狗とカラス天狗（写真4）がいた。



写真3 奥の社



写真4 左鳥天狗 右天狗

金比羅さんは山なのに何故船の神なのか、なぜ天狗がいるのか、天狗とカラス天狗の違いは何か、こうしたささやかな疑

問は楽しんで解いていくことにしよう。下山途中はポスターを見る余裕があった。「1年の計はこんぴらにあり」「しあわせさん こんぴらさん」とともにストレートでいい。ガイドのおじさん「知っている人は知っている、知らない人は知らない。遠州森の石松。石松が備前長船を納めたところです」。近年、正月映画に寅さんが登場しなくなって寂しくなったが、金比羅で寅さんに出会ったような気がした。

＊＊ Billboard ＊＊

BB279：司馬さんの色紙

我々が泊まった宿は慶応二年創業の「すし駒」。フロントに置いてあった書物、金子京子『琴平 すし駒旅館 繁盛記』2004.2.25、1200円を購入。

139頁に「司馬さんの色紙」と題する小話しが載せられていた。

「今も残る司馬さんの色紙は、すし駒の別館のロビーに飾られています。不思議なことにこの色紙の存在に気づく人は案外少ないのです」とあるが、階段を下りたところに飾られていたので私は直ぐ気がつきカメラに収めた（写真5）。昭和39年NHK大河ドラマ「竜馬が行く」の小説の後日再調査で高知に行く途中で「すし駒」に立ち寄りその時に書いた書で「為君葉々

起清風 昭和三十九年春 於讃州琴平 司馬遼太郎」とある。

平成の司馬遼太郎と呼ばれてるまでになった磯田君も感慨深げにこの色紙を眺めていたことであろう。



写真5 司馬さんの色紙

編集後記

JANUARY 13, 2008

このニュースレターも、今回で第4号を発行することになりました。この号から下記の研究プロジェクト・ホームページでも公開することにしました。次号はこの号に登場した磯田君の寄稿を掲載する予定です。

連絡先：村山 聡
香川県高松市幸町1-1
香川大学教育学部
tel/fax: 087-832-1571(office)
Email:
muras@ed.kagawa-u.ac.jp
Homepage:
<http://rfweb.ed.kagawa-u.ac.jp/project/wiki/muras/wiki.cgi>